

補足資料：【応募書類作成上の注意事項】

◆全般的な注意事項

<p>応募書類の各項目は、審査に必要な重要な事項となりますので、必ず記載してください。また審査の過程において適切な評価を導き出すため、それぞれの取り組みに関する主旨や状況等を的確に記載いただきますよう、特に、ご留意ください。同時に記載いただきました内容は、これからIT経営に取り組もうとする中小企業等を含め、広く模範として紹介させていただくことがありますので、できる限り要点を整理し、わかりやすく記載いただくようご配慮ください。</p> <p>なお、上記の留意事項等を踏まえ、応募書類については、原則、10頁以内（補足資料含む）とさせていただきますので、十分ご注意ください。</p> <p>応募書類は、外部秘扱いとして運用管理し、このまま公表されることはありません。</p>

◆項目ごとの注意事項

項目	注意事項
I. 企業（組織）概要	
①企業（組織）の名称（フリガナ）	ブランク、「・」を含めた登記上の表記を正確に記載してください。あわせて読み方を記載してください。 なお、「組織」とは、本制度が募集対象とする中小企業等によって構成される組合・団体等を言います。
⑨業種	日本標準産業分類を参考に記載してください。
⑩最近5年間の売上高の推移	決算書と照らし合わせて記載してください。（端数まで合わせていただく必要はありません。）組織の場合は、組織全体の売上高、又は、応募の対象となるIT活用領域での売上高を記載してください。
⑪最近5年間の経常利益額の推移	決算書と照らし合わせて記載してください。（端数まで合わせていただく必要はありません。）組織の場合は、上記⑩売上高に対応する経常利益額（率）を記載してください。
⑫最近5年間の従業員数の推移	派遣社員等を含む従業員総数を記載してください。 なお、（ ）内に正社員数を記載してください。
⑬IT部門の有無（名称）	IT部門を組織として持っている場合は、その名称を記載してください。 なお、この場合のIT部門とは、応募者自らの企業内・組織内の業務運営を支援する機能としてのIT部門を意味するもので、販売を目的としたソフトウェアを含む製品やサービスを開発したり、運用するためのIT部門は該当しません。
⑭CIO（IT経営の推進者）の有無（氏名）及び専任/兼任の区分	「CIO（IT経営の推進者）」とは、IT経営を実質的に推進する最高責任者をいいます。
⑮IT導入（システム開発）の担当区分	IT導入の進め方として、特にシステム開発について、自社開発かシステムベンダ等の委託先か、該当するところに○印を記入してください。 自社開発と外部委託の両方がある場合は、両方に○印を記入してください。外部委託した場合は、その範囲や内容を簡単に記載してください。
⑰最近5年間のIT関連費用の推移	IT関連費用の総額を記載してください。 明細については、Ⅲ補足事項⑫に記載してください
⑱主要な成果	応募事例について、IT活用の効果を中心に、最も主要な定量的成果について、100字以内で記載してください。 詳細については、Ⅱ評価表⑦に記載してください
II. 評価表	
①事業・商品・サービス内容（200字以内）	応募書類に記載されている注意事項をよくご確認の上、記載してください。
②ビジネスの特徴（200字以内）	応募書類に記載されている注意事項をよくご確認の上、記載してください。

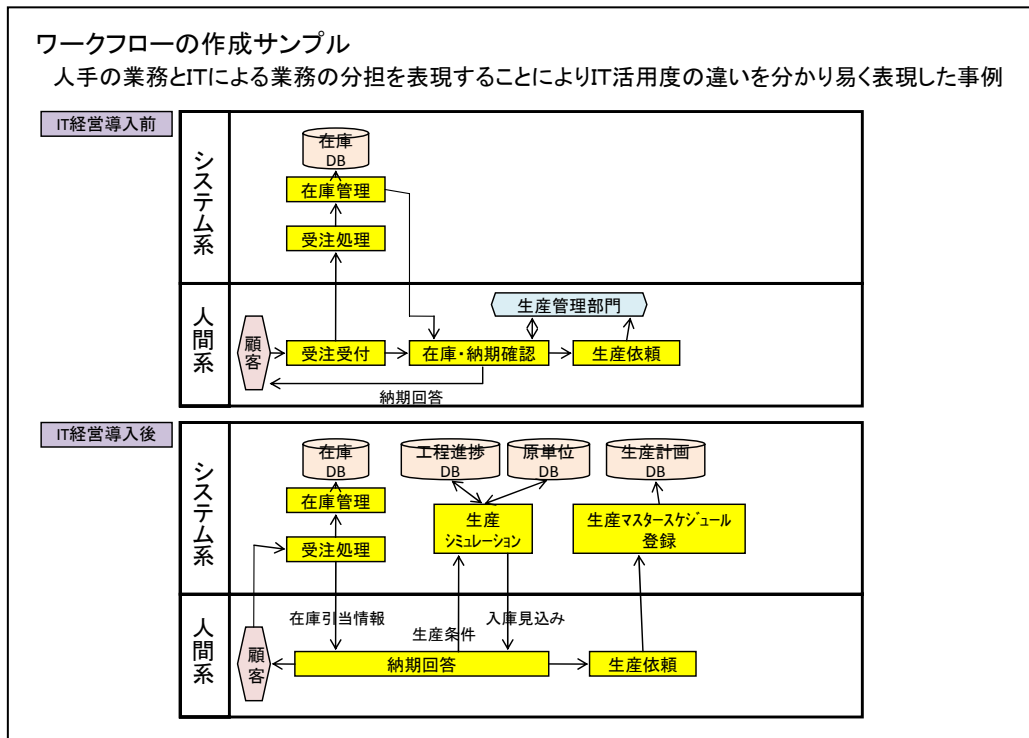
③IT 経営への取組み時期	④経営課題に記載された認識のもとに、⑤経営課題解決のための方策に記載された取組み（IT 導入）を始めた時期を記載してください。 （結果として成果算出の起点となる時期に相当します。）
④経営課題	応募書類に記載されている注意事項をよくご確認の上、記載してください。 例えば、グローバル化を含む市場の競争激化、強力な競合の出現による売上・シェアの低下、原材料価格の上昇による収益悪化、顧客要求の変化、品質問題、クレームの増加、ベテラン層の退職、業務の混乱による非効率、財務力の弱体化、経営管理機能の不足などについての状況認識や、それを踏まえた問題や課題認識について記載してください （キーワードの欄の該当するものに、○印をつけてください）
⑤経営課題解決のための方策	④経営課題に関連付けて、方策を記載してください。その他、応募書類に記載されている注意事項をよくご確認の上、記載してください。 （キーワードの欄の該当するものに、○印をつけてください）
⑥IT 経営推進の取組み	④経営課題や⑤経営課題解決のための方策に関連付けて、IT 経営の推進において、各段階ごとに、IT 経営の推進者などの関係者や体制が、どのように関わったかを、下記の例示などを参考にして記載してください。 ・IT 経営又は IT 導入の企画段階での、経営トップの方針の表明、経営層のリーダーシップ発揮など、関与のしたかについて。 ・IT 導入段階で求められる調整や問題対策の場面で、経営層や CIO 等がどのような意思決定を行ったかについて。 ・IT 活用や運用の段階で、目標とする成果実現のために、ユーザー部門や IT 部門はどのような工夫をしたかについて。また経営層はどのようにして状況を把握し、必要な対策を採ったかについて。 ・その他企画段階から IT 導入、活用・運用の段階を通して、従業員の取組みや参画の状況について。 ・外部人材を活用した場合の役割とその効果について（「Ⅲ補足事項⑩IT 経営推進を支援した者」の活用のしかたや役割を記載してください。）
⑦IT 経営実践の成果	④経営課題に関連付けて、実践の成果を記載してください。特に、IT 活用の成果と、それ以外の手段による成果が、分かるように記載してください。 その他、応募書類に記載されている注意事項をよくご確認の上、記載してください。 ※実現成果については、検証出来るデータの提示をお願いすることがあります。
⑧今後の解決すべき課題	④経営課題に関連付けて、現時点（応募の時点）での課題を記載してください。その他、応募書類に記載されている注意事項をよくご確認の上、記載してください。
⑨ワークフロー及び IT システム概念図	IT 活用の状況を、ワークフローやシステム概念図で表してください。 特に、IT 経営実践前と実践後が比較できるように表してください。 概念図を別添する場合でも、実践前、実践後、それぞれ一枚にまとめてください。 （別紙参照）
⑩情報セキュリティ対策	募集要領及び応募書類とセットになっている、「5分でできる中小企業のための情報セキュリティ自己診断シート」を使用し、各項目の確認内容に対する回答を記載してください。

Ⅲ. 補足事項	
⑪ IT 経営推進を支援した者	IT 経営推進に対する外部の支援者がいる場合は、区分に分けて、記載してください。応募内容を事例として公表する場合は、これらの支援者についても、原則として公表の対象となりますので、連絡確認のための住所及び電話番号を、あわせて記載してください。
以下については、公表の対象ではありません。	
⑫ 最近 5 年間の IT 関連費用の推移 (明細)	I. 企業 (組織) 概要⑩「最近 5 年間の IT 関連費用の推移」について、表に示す項目に分けて明細を記載してください。 応募書類に記載されている注意事項をよくご確認の上、記載してください。 合計は、I. 企業 (組織) 概要⑩「最近 5 年間の IT 関連費用の推移」と合わせてください。
⑬ 応募企業・組織の連絡先	応募書類の内容についての問合せや、審査過程での連絡の窓口となっていた方を記載してください。 外部の方が担当される場合は、該当する欄に、必要事項を記載してください。
⑭ 応募書類作成支援者	応募者からの希望を受け付けて、事務局から委託した IT コーディネータ等が応募書類の作成支援を行った場合に名前を記載してください。

別添：Ⅱ評価表⑨ワークフロー及びシステム概念図のサンプル事例

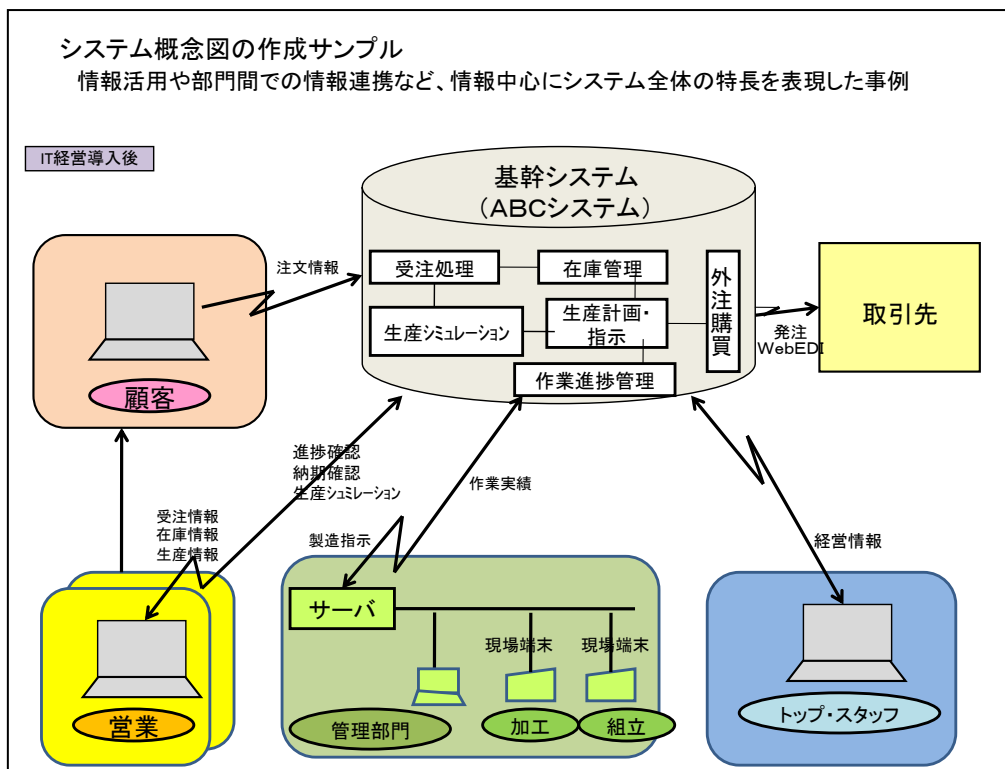
《ワークフローのサンプル》

下図を参考に、業務フローとシステム化の関係について、IT導入前と導入後での違いを表してください。



《システム概念図のサンプル事例》

下図を参考に、システムの全体概要や特徴が一目でわかるように表示してください。



【IT 経営実践事例のポイント】

「中小企業 IT 経営力大賞 2008」の事例をもとに、記載内容のポイントをまとめましたので、ご参照ください。

《IT 経営実践事例としての基本的要件》

- IT を活用して、経営の望む姿やあるべき姿の実現に取り組んでいること。
- IT 活用による経営への貢献度が顕著でわかりやすいこと。
- 自らの企業経営や組織運営に関する取組であること。

《IT 経営実践事例として望ましい事例》

- 経営課題の捉え方が適切であること。
 - ・経営課題からその解決の方策や戦略、それに応じた IT 活用までの展開のわかりやすいこと。
 - ・HP の作成やWEB の利用による販路拡大までで留まっている状況など、IT を活用した経営課題の解決策が限定的でないこと。
- IT 活用による業務や情報の共有化等が全社レベルで実現できていること。
 - ・「企業組織全体で IT の活用による最適化を実現」している段階程度 (IT 活用第 3 ステージ程度) にあること。
 - ※IT 活用ステージは「IT 経営ポータルサイト」
(http://www.meti.go.jp/policy/it_policy/it_keiei/) をご参照ください。
 - ・業務間や部門間での情報共有化等による IT 活用の効果が現れていること。
- IT 活用の効果が、経営課題の解決等の実現に明確につながっていること。

《IT 経営実践事例としての評価が困難な事例》

- IT 経営の取組とは言い難いもの。
 - ・特定のソフトの機能のみを利用したビジネスモデルの紹介が中心となっている場合。
 - ・自社の製品やサービスの PR が中心となっている場合。
- IT 経営の取組状況の把握が困難なもの。
 - ・記載がない、又は、記載内容が不足している項目があり、状況を十分に把握できない場合。
- IT 経営の取組成果の確証が困難なもの。
 - ・IT 経営の実践の成果が数値化されておらず、具体性に乏しい場合。
 - ・IT 経営の実践の成果が (時期尚早などの理由で) 目標値のみ記載されている場合。
 - ・経常利益のマイナスが継続している場合。